



第46期 中間報告書
2008.04.01-2008.09.30



Aoi Advertising Promotion Inc.

企業理念

Dream & Happiness

私たちは映像制作を通じ、すべての人々と喜びを分かち合い、
ひろく経済、情報、文化に貢献する企業をめざします。

行動規範

- 時代のニーズに応え、つねに創造的であること
- 思考と行動において、つねに情熱的であること
- 未知のものを恐れず、つねに挑戦的であること



ご挨拶

株主の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

ここに当社第46期中間期を終了いたしましたので、事業の概況につきましてご報告申し上げます。

原油・穀物など原材料価格の高騰により先行きに不透明感を増しつつあった海外景気は、サブプライムローン問題に端を発した金融危機の影響を受け、米国のみならず欧州・中国に加え新興国までも減速の度合いを強めました。外需依存型の成長をしてきたわが国経済は大きな影響を受け、一気に景気後退局面に入りました。

今夏は北京オリンピックという大きなイベントがあったにもかかわらず、テレビCM業界もこうした世界的な景気停滞の潮流には逆らえず、テレビ局、広告会社、そして制作会社ともかなりの苦戦を強いられております。


今年は当社創立45周年という記念すべき年であり、好業績をあげるべく社員一同必死で努力してまいりましたが、当中間期終了時点におきましては、残念ながら、計画、また前年実績を大きく下回る結果となりました。現在の市場の混乱がいつ収束に向かうのか、まだ予断を許さない状況ではありますが、ピンチのときにこそ力を発揮する当社のDNAを最大限に活かし、下期に向け、グループ一丸となって目標達成のために奮励する所存でございます。

株主の皆様には、今後とも一層の力強いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

なお、こうした厳しい環境の中ではございますが、中間配当金につきましては、中間期末日と期末日のバランスを是正するため、一株当たり7円（前期5円）とし、12月5日を支給開始日とさせていただきます。

私たちは「株主利益の増大を図る」とともに「社員、経営者、取引先、社会等すべてのステークホルダーに満足される共益的利益を維持・向上する」ことが最大の使命であると考え、コンプライアンスを経営の軸におき、迅速かつ適切な意思決定と、公正で透明性の高い事業運営を行ってまいります。

代表取締役社長



株主の皆様へ

当社グループの経営成績について

厳しい経営環境の中、当社グループでは、グループ各社の組織をあげて業績の維持・向上に向けて鋭意努力してまいりました。しかしながら広告需要減少の影響は思いのほか大きいものでした。

当社は、売上高が計画はもちろん前年実績までも下回り、利益面も制作原価率の抑制等経費の節減に努めたものの、減収に加え、仕掛作品の評価減、株式市場の下落に伴う委託機関の運用成績の大幅低下による退職給付費用の負担増、役員退職慰労金の支払いや投資有価証券評価損計上と繰延税金資産の一部取崩しに伴う税金費用の増加等もあり、不本意なものとなりました。

子会社では、(株)デジタル・ガーデン、(株)エムズプランニングが、売上高こそ伸ばしましたが、経費の増加をカバーしきれず、減益決算となりました。

照明機材事業の拡充を図っている(株)メディア・ガーデンは、本業のスタジオ業がやや不振であったことと減価償却負担増等から、将来に向けて陣容の整備をしている(株)葵デジタルクリエイションは、増収ではありましたが人件費・家賃等の増加が大きく、また再建途上にある(株)メイアンスパイクは、改善しつつあるものの未だ固定費をカバーできず、本年1月に設立した(株)スクラッチも創業時の費用を埋めることができず、いずれも損失を計上しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高76億8千4百万円（前年同期比97.5%）、営業利益2億5千3百万円（前年同期比52.9%）、経常利益2億2千4百万円（前年同期比49.4%）、四半期純損失8千5百万円（前年同期は四半期純利益1億8千8百万円）と前年同期より大きく後退しました。

当社グループの事業活動について

映像制作事業部門

厳しい状況の中、事業の中心であるCM作品の売上高は、健闘したものの53億5百万円（前年同期比99.4%）に止まりました。業種別売上状況は、「医薬・化粧品」「電気機器」「食品・飲料」が好調でしたが、これまで牽引してきた「自動車」にやや陰りが見えました。

今後の柱と期待される映像作品の売上高は、8億4千6百万円（前年同期比90.1%）となりました。Web関連作品は概ね順調に推移しましたが、映画関連作品が下半期にずれ込みました。

この結果、プリント等を加えた当第2四半期連結累計期間の映像制作事業部門の売上高は、70億9千3百万円（前年同期比96.8%）となりました。

その他事業部門

(株)メディア・ガーデンがやや不振でしたが、(株)デジタル・ガーデン及び(株)エムズプランニングが順調に伸長しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間のその他事業部門の売上高は、5億9千1百万円（前年同期比106.2%）となりました。

※前年同期との比較金額及び比率につきましては、参考として記載しております。

CM特集

TV Commercials

黄桜 企業
「出会い」「初対決」「乾杯」



広告電通賞 テレビ広告電通賞
フジサンケイグループ広告大賞 テレビ最優秀賞
ACC CMフェスティバル ゴールド

日本コカ・コーラ ファンタ
「透明先生」



ACC CMフェスティバル シルバー
©Coca-Cola
Posted under the approval of Coca-Cola (Japan) Co., Ltd.

日産自動車 企業
「新発明！アラウンドビューモニター」



ACC CMフェスティバル ブロンズ

大塚ペパレジ MATCH CLEAR
「放水」



ニューヨークフェスティバル ファイナリスト
ACC CMフェスティバル ファイナリスト

※著作権保護のため作品画像のWEB掲載はしていません

今後の見通し

今後のわが国経済は、これまで以上に厳しい状況が暫く続くものと思われます。種々の対策を講じられながら未だ不透明感を残す金融危機の影響が尾を引き、海外景気の回復が遅れ、また内需拡大にも限界があり、難局を脱する糸口を見出せない状況にあります。当然のことながら、企業・家計共に、より慎重な行動となると思われます。

勢い広告需要は、ますます冷え込むことが予想されます。一方、映像制作業界を取り巻く環境も広告媒体の多様化で変わりつつあり、当社のようなワンストップサービスに対応できる体制の整った制作会社への発注傾向が強くなっております。

当社グループは、事業の柱であるテレビCM制作にしっかりと軸足を置きつつ、映像制作会社としてメディアの新しい展開に的確に応え、いかなる環境の下でも安定した収益を確保するため引き続き努力してまいります。

以上により、通期の連結業績の見通しにつきましては、以下を予想しております。

| | 連 結 | 前期比 |
|-----------|----------|--------|
| 売 上 高 | 180億5千万円 | 104.6% |
| 営 業 利 益 | 7億8千万円 | 93.0% |
| 経 常 利 益 | 7億1千万円 | 90.9% |
| 当 期 純 利 益 | 2億5千万円 | 90.1% |

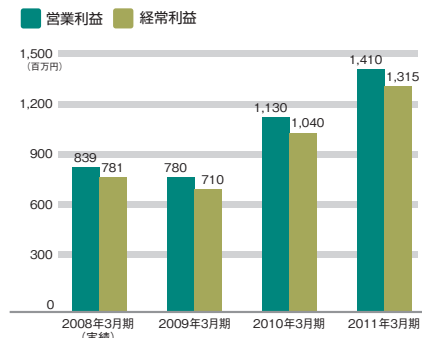
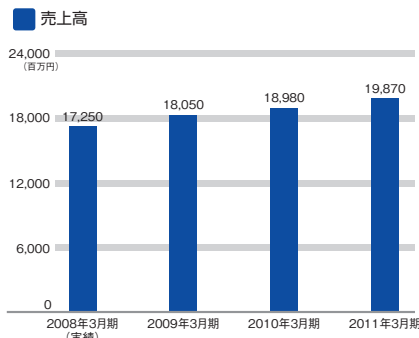
経営目標

当社グループは中期経営目標として、

- 1: グループ総売上高
190億円以上
(2011年3月期198億7千万円予定)
- 2: Webコンテンツ、映画等テレビコマーシャル
以外の映像コンテンツの売上高
40億円以上
(2011年3月期34億3千万円予定)
- 3: 1株当たりの当期純利益 50円以上
- 4: 株主資本当期純利益率 (ROE) 7%以上

を掲げております。

2011年3月期の業績目標数値



売上高目標

198億7千万円

営業利益 / 経常利益目標

14億1千万円 / 13億1千5百万円

テレビ信州 STOP飲酒運転
「シャドー」



消費者のために広告コンクール シルバー
ACC CMフェスティバル 地域ファイナリスト

資生堂 化粧品星マスカラブラックインパクト
「Flower」



カゴメ ラブレ
「モールドダンス」



NTTドコモ Answer
「あしたにつながる品質レポート」



※著作権保護のため作品画像のWEB掲載はしていません

当社CM以外の作品紹介

メディアミックスプロモーション

Media Mix

タカラトミー リカちゃん「Licca WORLD TOUR」



TVCM「たびだち」



WEB「リカ旅ブログ」



DVD「Licca WORLD TOUR DVD」

プロモーションビデオ

PV

EMIミュージック・ジャパン
JYONGRI

「Unchanging Love ~君がいれば~」



モバイル動画コンテンツ

Mobile

パバイヤ鈴木の「バカな方の鈴木」



テレビ東京の深夜バラエティ番組として人気を博した「パバイヤ鈴木」の「バカな方の鈴木」。そのDVDから抜粋したショートコメディを「ドーガ堂」「角川モバイル」などのドコモ公式動画サイトより配信中。ストリーミング配信により、途切れることなく動画の視聴が可能。

CM特集

TV Commercials

日産自動車 ティアナ
「宿・豊川悦司」



日本民間放送連盟 CMのCMキャンペーン
「Enjoy!CM ゼロの時代」



ヤマト運輸 クロネコヤマト
「宅配は、ネコである」



日本マクドナルド 24時間キャンペーン
「自分の時間」



Green Film Project 2008

「everyday ~こんな僕らの毎日も この星の毎日だ~」



2006年にCMを活用して環境問題を訴えるプロジェクトとして電通とTBSがスタートさせたグリーンフィルムプロジェクトの第3弾。

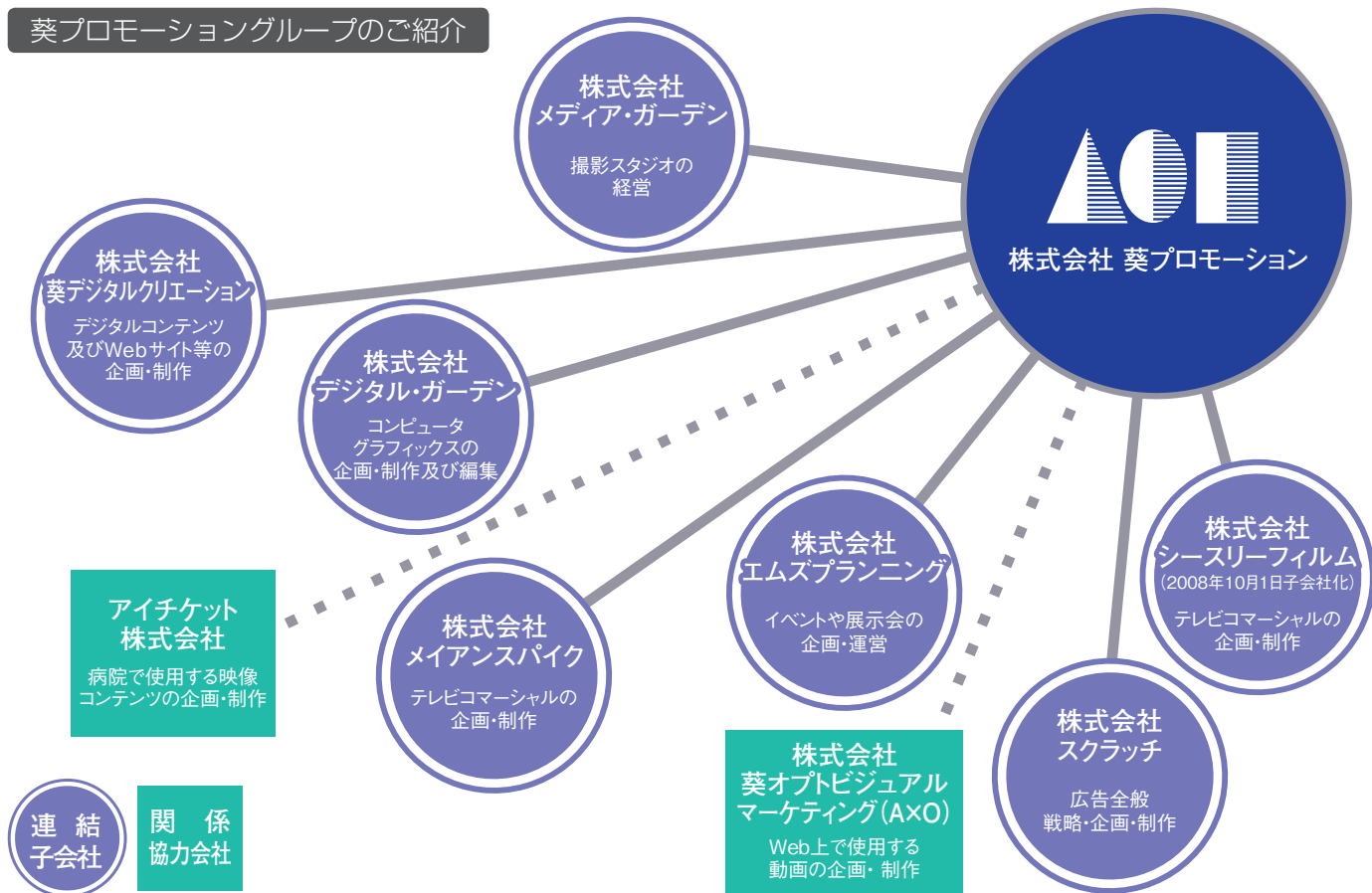
2008年は啓蒙的な枠から一歩踏み出し、日常に隠された“エコのチャンス”を“実践”へ結び付けることを目的として全10話のドラマ型CMが9月1日~12日の平日10日間にわたり放送された。

主演は加瀬亮と真木よう子。最近すれ違っていた2人の日常生活を、男性と女性それぞれの視点から描いている。ありふれた日常の中で“誰でも、簡単にできるエコ”を具体的かつさり気なく紹介し、視聴者への実践を促した。

パラレルサイト・ビューイングと呼ばれる斬新な手法も取り入れ、メディア（テレビ、iTunesのPodcast、Webサイト）を組み合わせ楽しむことができる点でも話題を呼んだ。

※著作権保護のため作品画像のWEB掲載はしておりません

葵プロモーショングループのご紹介



経営の方向性

◆ワンストップサービス機能の強化◆

専門性の高い各グループ会社との連携により、広告主からの幅広いニーズにワンストップで応えられる体制を強化します。

◆優れた映像コンテンツの制作◆

テレビコマーシャルの制作を通じて培った高度なクリエイティビティを活かし、見る人の心に届くクオリティの高いコンテンツを制作します。

◆グローバルな制作体制の積極的活用◆

海外の優れた才能を日本から直接活用できるネットワークや、海外プロダクションとの友好関係を活かすグローバルな制作体制を強化します。

◆クロスメディアに対応できる人材の育成◆

テレビコマーシャルの制作、Webコンテンツの制作はもちろん、メディア戦略の提案までできる企画・開発力を備えた人材の育成に努めます。

株式会社 葵デジタルクリエーション

Digital Contents



ナイキジャパン Super Liger
「Super Liger プロモーションムービー」
「Super Liger Message 開発者インタビュームービー」ほか
http://www.nike.com/nikeos/p/nikefootball/ja_JP/



東京海上日動 企業広告サイト
「それは、夢ですか、リスクですか」

株式会社 メイアンスパイク

TVC



ブリヂストンFVS タイヤ館
「スタッドレス選びのお手伝い」

株式会社 エムズプランニング

Events



徳島県／東京シティ青果
東京都中央区食育プロジェクト「収穫祭」
東京都中央区が区内小学校を対象に食育活動の一環として
行っているサツマイモ栽培体験。その締めくくりである
「収穫祭」を企画、銀座数寄屋橋公園にて実施・運営した。
徳島県より寄贈されたサツマイモの苗を小学生が自ら栽培
し、収穫の喜びを体験することで、食育への関心を呼び起
こした。さらに産地と都市部を繋ぐきっかけ作りのイベント
としても成功した。



第一三共ヘルスケア トラフル錠
「食べたいのに」

株式会社 メディア・ガーデン

Studio



横浜市港北ニュータウンの一角に立つ、世界でも最高水準の設備を持つCM撮影
スタジオ。約2,000坪の敷地に、撮影規模や用途に応じて選べる3タイプのスタ
ジオを有する。2006年からは照明機材のレンタル業務も行っている。

株式会社 デジタル・ガーデン

Post Production



HD対応のオンライン編集室を5チェーン保有し、CG作業からMAまで一貫した編集
作業が可能。2008年10月にはアメリカのCompany3社、Method社と業務提携
を結び、国際間の距離をなくしたりリモートセッションのサービスを始めた。

※著作権保護のため作品画像のWEB掲載はしていません

第2四半期連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

| 科目 | 期別 前第2四半期 (平成19年9月30日現在) | 当第2四半期 (平成20年9月30日現在) | 前期 (平成20年3月31日現在) |
|-------------------|--------------------------------|--------------------------|----------------------|
| (資産の部) | | | |
| 流動資産 | 9,419,028 | 9,285,596 | 9,283,108 |
| 固定資産 | 8,254,766 | 7,565,122 | 7,797,386 |
| 有形固定資産 | 5,199,026 | 5,094,931 | 5,113,347 |
| 無形固定資産 | 170,539 | 158,211 | 158,228 |
| 1 投資その他の資産 | 2,885,200 | 2,311,979 | 2,525,810 |
| 資産合計 | 17,673,795 | 16,850,718 | 17,080,494 |
| (負債の部) | | | |
| 2 流動負債 | 5,725,466 | 4,927,277 | 5,400,802 |
| 固定負債 | 2,256,292 | 2,560,148 | 1,972,547 |
| 負債合計 | 7,981,758 | 7,487,426 | 7,373,350 |
| (純資産の部) | | | |
| 株主資本 | 9,557,944 | 9,255,040 | 9,585,297 |
| 資本金 | 3,323,900 | 3,323,900 | 3,323,900 |
| 資本剰余金 | 3,945,099 | 3,945,069 | 3,945,080 |
| 利益剰余金 | 3,078,201 | 2,776,958 | 3,106,158 |
| 自己株式 | △ 789,255 | △ 790,887 | △ 789,841 |
| 評価・換算差額等 | 71,258 | 4,187 | 28,137 |
| 少数株主持分 | 62,834 | 104,064 | 93,708 |
| 純資産合計 | 9,692,037 | 9,363,292 | 9,707,144 |
| 負債及び純資産合計 | 17,673,795 | 16,850,718 | 17,080,494 |

第2四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

| 科目 | 期別 前第2四半期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで) | 当第2四半期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで) | 前期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで) |
|------------------|---|---|-------------------------------------|
| 3 売上高 | 7,884,330 | 7,684,260 | 17,250,438 |
| 売上原価 | 6,741,929 | 6,715,031 | 15,035,427 |
| 売上総利益 | 1,142,401 | 969,228 | 2,215,011 |
| 販売費及び一般管理費 | 662,271 | 715,319 | 1,375,979 |
| 営業利益 | 480,129 | 253,909 | 839,032 |
| 営業外収益 | 26,418 | 19,587 | 45,763 |
| 営業外費用 | 51,245 | 48,700 | 103,451 |
| 経常利益 | 455,301 | 224,796 | 781,343 |
| 特別利益 | 21,234 | 14,047 | 15,216 |
| 4 特別損失 | 366 | 182,522 | 69,339 |
| 税金等調整前四半期(当期)純利益 | 476,169 | 56,321 | 727,221 |
| 法人税・住民税及び事業税 | 213,491 | 54,839 | 444,238 |
| 4 法人税等調整額 | 63,523 | 82,837 | 599 |
| 少数株主利益 | 10,513 | 4,521 | 4,949 |
| 四半期(当期)純利益(△純損失) | 188,640 | △ 85,876 | 277,433 |

POINT 1

投資その他の資産の減少は、主に期末時価低下による投資有価証券や繰延税金資産等の減少によるものです。

POINT 2

流動負債の減少は、長期借入金へのシフトによる短期借入金や課税所得減少に伴う未払法人税等の減少によるものです。

POINT 3

売上高の減少は、子会社各社の健闘がありましたが主に中核会社葵プロモーションの減少によるものです。

POINT 4

特別損失の増加は、6月の株主総会を以って退任した役員に対する役員退職慰労金の支払い及び投資有価証券評価損等によるものです。
法人税等調整額の増加は、繰延税金資産の一部取崩しによるものです。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)

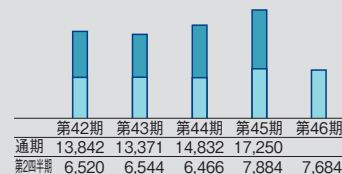
| 科目 | 期別 | 前第2四半期 | 当第2四半期 | 前期 |
|----------------------------|----|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | | (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで) | (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで) | (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで) |
| 5 営業活動による キャッシュ・フロー | | 855,332 | 361,016 | 1,257,940 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | | △ 160,745 | △ 293,164 | △ 117,620 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | | △ 284,546 | 601,654 | △ 1,294,478 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | | 22 | 192 | △ 1,827 |
| 現金及び現金同等物の 増加 (△ 減少) 額 | | 410,063 | 669,698 | △ 155,986 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | | 1,066,797 | 910,811 | 1,066,797 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末 (期末) 残高 | | 1,476,861 | 1,580,509 | 910,811 |

POINT 5

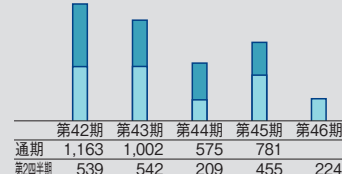
営業活動によるキャッシュ・フローの悪化は、主に税金等調整前四半期純利益の減少によるものです。

財務ハイライト (連結)

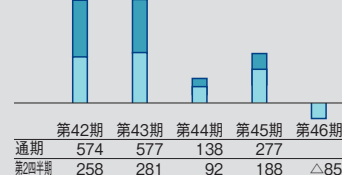
売上高 (単位：百万円)



経常利益 (単位：百万円)



四半期 (当期) 純利益 (単位：百万円)



株券電子化前後における単元未満株式買取請求・買増請求のご請求について

株券電子化の前後においては、単元未満株式買取請求ならびに買増請求につきまして、以下のとおりとなりますので、ご留意ください。

(1) 保管振替制度をご利用でない単元未満株式に関するご請求

① 単元未満株式買取請求

平成21年1月5日 (月) から平成21年1月25日 (日) までは、受付をいたしません。

また、平成20年12月25日 (木) から12月30日 (火) までのご請求受付分につきましては、買取価格はご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払いを平成21年1月30日 (金) とさせていただきます。

② 単元未満株式買増請求

平成20年12月12日 (金) から平成21年1月25日 (日) までは、受付をいたしません。

(2) 保管振替制度をご利用の単元未満株式に関するご請求

株券電子化実施の前後において、一定期間お取引の証券会社でお取次ぎを行わないと承っております。具体的な日程につきましては、証券会社により異なることが考えられますので、お取引の証券会社にお問い合わせください。

会社の概況

(平成20年9月30日現在)

| | |
|---------|---|
| 商号 | 株式会社 葵プロモーション |
| 設立 | 昭和38年10月25日 |
| 資本金 | 3,323,900千円 |
| 従業員 | 273名(葵グループ400名) |
| 主要な事業内容 | テレビコマーシャルの企画及び制作を主に、 映像制作及びこれらに付帯する業務 |
| 主要な事業所 | 本社 東京都品川区 支店 米国カリフォルニア州カラバサス オフィス 新橋(東京都中央区) 赤坂(東京都港区) スタジオ 神奈川県横浜市都筑区 編集スタジオ 東京都渋谷区 |

取締役及び監査役

(平成20年10月1日現在)

| | |
|----------|--------|
| 代表取締役社長 | 高瀬 哲 |
| 取締役副社長 | 本多 俊也 |
| 専務取締役 | 八重樫 悟 |
| 常務取締役 | 藤原 次彦 |
| 取締役 | 小甲 則夫 |
| 取締役 | 佐藤 恵 |
| 取締役(非常勤) | 大村 正一郎 |
| 常勤監査役 | 斉藤 博 |
| 監査役 | 田村 慎太郎 |
| 監査役 | 西本 行孝 |
| 監査役 | 湯佐 富治 |

(注) 田村慎太郎、西本行孝、湯佐富治の3氏は社外監査役であります。

株式の状況

(平成20年9月30日現在)

| | |
|----------------------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 38,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 12,164,474株 |
| (自己株式 1,170,166株を除く) | |
| 株主数 | 2,826名 |

大株主の状況

| 株主名 | 持株数 | 出資比率 |
|-----------------------------|-------|------|
| | (千株) | (%) |
| 株式会社コスモチャンネル | 1,312 | 10.7 |
| 株式会社イマジカ・ロボットホールディングス | 1,000 | 8.2 |
| 松本 洋一 | 575 | 4.7 |
| 原 仁 | 461 | 3.7 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 331 | 2.7 |
| 原 文子 | 328 | 2.6 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G) | 256 | 2.1 |
| 株式会社葵プロモーション従業員持株会 | 221 | 1.8 |
| 株式会社オムニバス・ジャパン | 220 | 1.8 |
| 株式会社テーオーシー | 202 | 1.6 |

(注) 1. 出資比率については、自己株式(1,170千株)を控除して算出しております。
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)及び同行(信託口4G)の持株数は、全て信託業務に係る株式数であります。

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年の3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
- 単元株式数 500株
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当の支払いを行うときは9月30日といたします。
- 公告方法 電子公告の方法により行います。
公告掲載URL (<http://www.aoi-pro.com/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同送付先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル (0120) 232-711
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話及びインターネットでも24時間承っております。なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。
フリーダイヤル (0120) 244-479
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株式会社 葵プロモーション

〒141-8580 東京都品川区大崎一丁目6番1号

TEL (03)3779-8000 (代表)

www.aoi-pro.com

